

## 保育所における自己評価

A: たいへんよい  
C: 一部検討する100%  
50%B: よい 75%  
D: 改善を要する25%

| 項目        | 内 容   | 評価 | 意見・改善方法  |
|-----------|---|----|--|
| 子どもの発達・援助 | 1. 指導計画の評価を定期的に行い、反省を活かし結果に基づき指導計画を改善している。<br>・一人ひとりの子どもの発達状況に配慮した指導計画となっている。   | B  | 一人ひとりの育ちの目標を立て、発達状況に配慮し保育を行った。全体的な指導計画の評価については、反省点を更に活かして改善していきたい。             |
|           | 2. 一人ひとりの子どもの発達状況、保育目標、保育の実際について話し合うための会議を定期的にかつ必要に応じて開催している。   | A  | クラスではその都度話し合いを行い保育を進めている。全体的には職員会議を始め必要に応じて情報を共有している。                          |
| 健康管理      | 1. 登園時や保育中の子どもの健康管理は一人ひとりの健康状態に応じて実施している。   | A  | 保護者からの連絡事項を朝礼で確認・共有し、ひとり一人の健康状態に応じた保育を実施している。                                  |
|           | 2. 感染症への対策についてはマニュアルがあり、発生に際してはその状況を保護者に連絡している。   | A  | 発生状況等は迅速な連絡を行い、感染防止に努めた。   |
|           | 3. 専門医から指示があった場合において、アレルギー疾患を持った子どもの状況に応じて適切な対応を行っている。  | A  | 専門医からの指示を共有し、保護者と確認を取りながら適切な対応を行った。  |
|           | 4. 内科検診・歯科検診の結果について職員や保護者に伝達しそれを保育に反映させている。   | C  | 検診結果は迅速に行っているが、内科検診の伝達方法について、さらなる改善を進めていきたい。                                   |
| 食育        | 1. 食事を楽しむことができる工夫をしている。<br>・手作りおやつ、季節感のある旬の食材、喫食状況に基づいた食事内容の改善、食育活動全般など工夫している。  | B  | 旬の食材や手作りおやつを多く取り入れ、子どもたちの状況に応じて改善を行った。クッキングは感染症を意識しすぎた為か回数が少なかった。              |
|           | 2. 子どもの食生活を充実させるために、家庭と連携している。  | B  | 特に離乳食は念入りに個別に連絡を取り合い、発達に応じた対応をしている。  |
|           | 3. 食物アレルギーは、個別に配慮し食事を提供している。  | A  | 朝礼でその日の除去食を伝達、共有し、提供の際は給食担当、保育士がそれぞれ確認を行って提供している。                              |
| 保育環境      | 1. 子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。衛生面の配慮や、不快なおいへの配慮をしている。   | A  | 除菌消毒器の使用や部屋の換気、また玩具の定期的な消毒をするなど、特に衛生面への配慮を十分行った。                               |
|           | 2. 生活の場に相応しい環境とする取組を行っている。<br>・子どもが不安になったりしたときいつでも保育者が応じられるように身近にいる。<br>・くつろいだり落ち着ける場所や、眠くなった時安心して眠ることができる空間が確保されている。 | B  | 子どもが毎日を安心して過ごせる環境、空間づくりに配慮している。また保育士はいつでも笑顔で応じられるように心掛け、子どもの気持ちに寄り添った対応に努めている。 |

|           |   |   |  |
|-----------|---|---|--|
| 保育内容      | 1. 子ども一人ひとりへの理解を深め、受容しようと努めている。<br>・子どもにわかりやすい温かな言葉づかいで話している。<br><br>・子どもの気持ちを受け止めて、その都度対応している。 | B | 一人ひとりの思いに向き合い、子どもの気持ちを受け止め共感する等、寄り添った関りを常に意識している。                              |
|           | 2. 基本的な生活習慣や生理現象に関しては、一人ひとりの子どもの状況に応じて対応している。   | B | 家庭との情報共有を行い、個々の状況を把握し、その日に応じて無理なく楽しめる保育を行っている。                                 |
|           | 3. 環境の構成を意識した保育や過程を常に工夫している。<br>・子どもが自発的に活動できるように環境が整備されている。                                    | B | 全体的な計画を基本とし、年齢に合わせた遊びや活動がスムーズにできるように、幅広い保育環境を考え取り組んだ。                          |
|           | 4. 身近な自然や社会と関われるような取り組みがなされている  | A | 散歩を多く取り入れ、自然と触れ合い五感を刺激させる取り組みを行った。地域の方々との出会いも大切にしている。                          |
|           | 5. 様々な表現活動が自由に体験できるように配慮されている。  | B | 伸び伸びとした生活や遊びが満足できるように配慮し、子どもの主張を受け止めつつ、自信につながる環境作り心がけた。                        |
|           | 6. 遊びや生活を通して、人間関係が育つように配慮している。  | B | SDGsに関する活動を通して思いやりの心や協同性の育みを目指した。また子ども同士のやりとりを見守り、必要に応じて声掛けをし仲立ちを行った。          |
| 人権尊重      | 1. 子どもの人権に十分配慮するとともに、文化の違いをお互いに尊重する心を育つよう配慮している。<br>・子どもの権利擁護に関する研修に参加している。                     | B | 子どもの人権を尊重し、気持ちを大事にするとともに、温かな心が育つよう配慮している。園内研修で人権擁護の視点からさまざまな事例をもとにグループワークを行った。 |
|           | 2. 性差への先入観による固定的な観念や役割分業意識を植え付けないよう配慮している。  | B | 性差への先入観等による意識を植え付けないように配慮し、子どもひとり一人の思いを尊重している。                                 |
| 特別支援保育    | 1. 医療機関や専門機関から相談や助言を必要に応じて受けられる。  | B | 関係機関とは、必要に応じて相談、助言を受け連携を図っている。今後も連携を行い、より良い保育を行っていききたい。                        |
|           | 2. 支援が必要な子どもの保護者に適切な情報を伝えるための取り組みを行っている。  | C | さまざまな支援に関する情報を取得し、適切な情報を伝えるように努力したい。   |
| 保護者への支援   | 1. 医療機関、児童相談所の専門機関と連携をはかり、保護者にとって必要な情報を提供している。  | B | いつでも保護者からの要望、相談を受け入れられるように、連携を図っている。   |
|           | 2. 一人ひとりの保護者と、日常的な情報交換に加え、個別面談などを行っている。   | B | 送迎時やシステムでの連絡で子どもの健康面や生活面の様子を伝え、情報交換を行っている。保護者からの相談等がある時は個別面談を行っている。            |
| 要保護児童への対応 | 1. 虐待を受けていると疑われる子どもの早期発見に努め、得られた情報が速やかに関係機関などに照会、通告する体制が整っている。                                  | B | 法人内の委員会に担当者が参加し、知識を深め、園に持ち帰り周知している。早期発見、通告等の体制を強化したい。                          |

|           |  |   |  |
|-----------|--|---|--|
| 一時保育の配慮   | 1. 一時保育は、一人ひとりの子どもの心身の状況を考慮し、通常保育との関連を配慮しながら行っている。<br>・一時保育を利用する子どもと通常保育の子どもとの交流に配慮している。 | A | 一時保育児と通常保育児との隔たりに作らず、保護者との情報共有を図り、子どもの心身の状況を考慮し、安心して過ごせるように努めている。                |
| 説明責任      | 1. 理念や基本方針が利用者等に周知されている。<br>・情報提供(パンフレットなど)について伝える工夫をしている。                               | B | 入園児の個別面談時に説明を行ったり、毎月の園だよりに保育目標を記載するなどして周知している。                                   |
| 安全対策・事故防止 | 1. 調理場、水回りなどの衛生管理はマニュアルに基づいて適切に実施されている。  | A | 日々の掃除をこまめにし、毎月、管理簿に沿ってチェックを行っている。  |
|           | 2. 施設の内外・設備の安全点検を計画的に行っている。  | A | 全職員で当番を決め、毎月、計画的に施設内外整備、遊具等の点検を実施している。   |
|           | 3. 不審者等に対する周到な配慮を行っている。  | B | 避難訓練の中で、役割を決めて行い、反省点を改善し、スタッフ間で理解を深めている。周到な行動ができるよう訓練を重ねていきたい。                   |
| 研修計画      | 1. 定期的に個別の教育・研修計画の評価・見直しを行っている。  | B | 集合型の研修が増えてきたので、計画的に行い、参加者が偏らないように配慮していきたい。                                       |
|           | 2. 資質向上の取り組みを行っている。  | B | 園内でテーマを決め研修を行ったり、外部研修で得た学びを全スタッフに回覧・伝達を行い、共有することで資質向上を図っている。また、保育に反映させるよう努力している。 |
| 情報保護      | 1. 乳幼児や保護者に関する個人情報を適正に取り扱っている。<br>・遵守すべき法令等を正しく理解するための取り組みを行っている。                        | B | 個人情報に関しては、管理を適切に行い、取扱いに十分注意をしている。法令に関することをわざわざあるが園内研修で取り組むことができた。                |
| 苦情処理      | 1. 保護者が相談や意見を述べやすい環境を整備し、迅速に対応している。  | B | 保護者とコミュニケーションを図り、話しやすい雰囲気づくりを行い、信頼関係を深めるよう努力している。                                |
|           | 2. 苦情解決の仕組みが確立され十分に周知されている。  | C | 入園の際に保護者へ説明を行っているが、スタッフを含め、十分に周知できているか課題である。                                     |
| 地域との交流    | 1. 地域との関係が適切に確保されている。  | B | 地域の方には、積極的に挨拶をしたり、園の様子をたよりにして回覧するなど、確保する為の取り組みを行っている。                            |
|           | 2. 保育所が有する機能を地域に還元している。  | B | 地域の行事に参加することができた。今後もそのようなかたちで還元していきたい。   |
| 小学校との連携   | 1. 小学校との間で行事などの交流する機会を設けており、職員間の研修などの連携体制が整備されている。                                       | B | 教諭による保育体験や児童が行う職場アンケートに答える等、交流する機会があった。また小学校との連絡会に参加し、就学に向けた連携を図っている。            |